

第 4 章

≡公開授業と≡公開検討会



第4章 ミニ公開授業とミニ公開検討会

はじめに

本年度の事業は、財源確保の関係から、後期から始めることになった。そのため、「公開授業&検討会」も後期から始めざるを得なかった。平成12,13年度と年間続けてきた他大学講師を招いた大規模な「公開授業と公開検討会」イベントを本年度は実施せず、昨年度から始めた「ミニ公開授業&検討会」だけに絞った。それは、この2年間で学内に「公開授業&検討会」の啓蒙は終わったと判断したからであった。だが、その判断は早計であったかもしれない。こうした誰でもが参加できる開かれた大規模なイベントとしての「公開授業と公開検討会」でなければ「公開授業&検討会」に参加しない教官が多いのも事実であった。また、教官のなかにはこうしたイベントを楽しみにしている教官もいる。このように、来年度からは再び特定の授業を特定の日に「公開授業&検討会」として開催した方がいいだろう。

本年度の「ミニ公開授業&検討会」の申し込み件数は8件と、昨年度の6件よりも増加した。たった2件の増加ではあるが、自主的な申し込みがあったことは誠に嬉しい限りである。

今回特筆すべきことは、「ドイツ語」の申し込みが3件もあったことである。このことは、「ドイツ語」の教官が主体的に授業改善を始めた、ということ宣言しているようなものである。こうした同じ専門家集団が自主的に相互研鑽による授業改善を開始してくれることが、「ミニ公開授業&検討会」の目指すところであった。「ドイツ語」グループの勇気に敬意を表するとともに、かれらの授業改善が組織的に進むことを切に願うのである。

1年に1回は他の教官の授業を参観し、そして少なくとも3年に1回は自分の授業を公開しよう、ということで「ミニ公開授業&検討会」を始めた。この「ミニ公開授業&検討会」が個々の授業を改善するためのもっとも有効な方法であると確信している。来年度は是非とも、前期から実施したい。そして「ミニ公開授業&検討会」が日常的に開かれるようになったときには、山形大学の教育レベルは飛躍的に上がっていることだろう。もし、それを疑うならば、まずそれをやってみてはどうだろうか。その方法等については、昨年度の報告書を参照していただきたい。

ミニ公開授業・検討会登録授業

授 業 名	担当教官
「詩は滑稽だ」現代詩を読む-(文学)	中村 三春
ヨーロッパ美術史入門(芸術)	元木 幸一
新・生命再考(教養セミナー)	小田 隆治
ようこそ先輩(教養セミナー)	仙道富士郎
ダンス(スポーツ実技)	高橋 芳子
ドイツ語	奥村 淳
ドイツ語	渡辺 将尚
ドイツ語	林 雄作

ミニ公開授業・ミニ公開検討会アンケート結果

授業科目名：

授 業 者：

公開日時：月 日()：～：

参 観 者：

設問1 今回の授業の感想を自由に書いてください。

設問2 今回の授業を公開・参観して、御自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも、自由に記述してください。

ミニ公開授業 1

授業科目名：詩は滑稽だ-現代詩を読む-(文学)

授 業 者：中村 三春(人文学部)

公開日時：10月16日(水) 8:50～10:20

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

パワーポイントで、話の要点が分かり易く感心した。ただ、教員がパソコンに縛られて、アドリブを利かせにくいという気はした。小生の場合は、「脱線」を楽しむ方なので、板書が良いかな。

設問2について

一年生向けなので、変に妥協しないで、学問的にしっかりとしたことを分かり易く述べるというスタンスは参考になった。

参観者2：人文学部

設問1について

非常に面白かった。特に板書する代わりに、予めパソコンにテキストや要点を入力し、映写する方法が有効だと分かって有益だった。この方法については、1)授業の速度が上がり、学生がついていけなくなる。2)一方通行的な情報伝達になる等の危険があるのではないかと予想していたが、1)については、余談も交えて適切な速度が保たれており、2)については学生の反応を見る限り、大多数が熱心にノートを取っていた。また、今回は時間の関係で行われなかったが、学生自身による作文も取り入れられているようで、予想されたような問題はほとんど生じていないと感じられた。

設問2について

私自身の専門での講義は、組み立てとしてはパソコン化した方がやりやすいかもしれないと思った。板書より、1)テキストや要点を繰り返し提示できる。2)強調箇所を指示しやすい等の点で、パソコンによる提示の方が優れている。ただし、この方法は、1)学生の眼前で論理を組み立ててみせる、そのプロセスを示すという点では板書に劣るかと思う。もちろんこれは錯覚

だが、臨場感という錯覚は、学生の緊張感を保つ上では無視できない。

要約の記述があまりにチャート化されている気がしないでもないが、マニュアル的であれ、基本概念・術語を学生に植え付けることは重要である。教養教育や専門基礎レベルでの授業では、なおさらこういうことはした方がよい。

設問3について

大変有意義。こういう機会をもっと増やした方がよい。自分がやれと言われると、ちょっと、二の足は踏むけれど。

参観者3：人文学部

設問1について

パワーポイントの使い方に見習うべき所が多かった。

設問2について

自分が板書と講義を中心とした授業を行ってきたので、学生の視覚に訴えようとする授業担当者のやり方は参考になった。

設問3について

公開授業を専門科目についてもやったらどうかという意見が出た。もっともなことだと思う。

参観者4：人文学部

設問1について

文学の授業にパソコンを使用している点が斬新だった。黒板の代わりにパソコンだが、予想外にゆっくりしたペースで、しかもスクリーンの言葉は端的であり、学生には分かり易かったのではないかと思う。実際、知っている学生のノートを見せてもらったが、良く記録していた。

ただ、最初から最後までスクリーンを見ているのはつらい。実際10時過ぎに、眠る学生が増えた。1、2度教室を明るくして、ペースを転換することが必要ではないだろうか。

設問2について

文字を映写するということが、私にとっては意外だったので、勉強になった。利用させていただく。教室の後列の照明だけをつけて映写していたが、学生がノートをどけて、映像を見ることができるギリギリの明るさだった。調光式ライトの教室をもっと増えることを希望する。

設問3について

食事を取りながらの検討会は楽しかった。私は、検討が授業内容にまで進み、文学論が戦わされるのではないかと恐れつつ、期待していたが、授業の技術論のみの検討会だった。

参観者5：人文学部

設問1について

内容の分量も、話し方の早さも適切なものと感じた。パワーポイントを使用しての授業ということで、大変興味深く参観させてもらったが、こうした機器は今回のように若干のトラブルが避けたい所に、私などは二の足を踏んでしまいます。

もっと簡便になれば、利用したいとは思いますが。

設問2について

丁寧に復習していくところは、あらためて聞く側に回った場合、大いに参考になった点でした。

参観者6：人文学部

設問1について

コンピュータによるプレゼンテーションを駆使した、先端的な授業であった。明快なスライドの使用と、良くまとまったプリントも用いて進められた点が評価できる。

設問2について

資料の提示方法、構成法など、大いに参考になる点が多かった。

設問3について

大いに参考になる点はあるが、むしろ新たに採用された、教育歴の浅い教員などに参観を促した方が、より実効性が上がるのではないかと思われる。

授業者のアンケート

設問1について

今回は、私の授業としては初めて、パワーポイントによるスライドを導入した。教養教育と専門教育の講義すべて(4講義)で、板書を廃し、スライドとビデオを活用することにしたのである。当初、何より先不慣れで、スライドの作成はもとより、機器の接続についても、授業中に立ち往生することも多かった。また、スライドの切り替えが早過ぎて、対応できないと言った学生の声も多く聞いた。今後、これを改善すべく、スライドの切り替えタイミングや、プリント資料の併用について検討していきたいと考えている。しかし、個人的には、板書による授業に比べて、数段、授業効果が高いと感じられる。改良を重ねながら、継続して実践していきたい。

設問3について

参加してくださった先生方から、多々貴重なご意見をいただいた。また、先生方は、学生の反応もよく見てくださり、授業担当者の気づかない問題点も指摘してくださった。心より感謝したい。また、このような公開授業検討会を今後も続けていきたいと思っている。

ミニ公開授業2

授業科目名：ヨーロッパ美術史入門(芸術)

授業者：元木 幸一(人文学部)

公開日時：1月24日(金) 8:50~10:20

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

スライド等ビジュアルな機器を使用して、わかりやすく楽しい授業になっている。講義も聞き取りやすい。

設問2について

ビジュアルな機器を活用するのは、なかなか良いものだったので、今後利用を検討してみたい。

参観者2：人文学部

設問1について

- ・授業の初めに前回の学生からの質問に回答した点が良い。
- ・数人の学生のノートの取り方を観察して気がついたこと。

黒板に書いたことはノートへ、口頭で説明したことはプリン

Hに直接記入していた。スライド説明はノートをあまり取らない。

- ・シラバスにも書かれていたが、前列に着席するように指導するとよいと思いました。

設問2について

私の授業は実習が中心であるが、スライド(図)の提示方法が参考となりました。特に説明している部分を必ずポインターで示している点が良い。

参観者3：人文学部

設問1について

全体としてスムーズに進んでいたと思います。

設問2について

やはり視聴覚教材の使い方がいろいろと参考になり、自分の授業にもできるなら工夫したいと思いました。

参観者4：教育学部

設問1について

元木先生の言葉遣いの丁寧さと優しさに関心しました。言葉遣いは、やはり大事なことです。

とっかかり(興味や関心、基礎知識)を持たない事象を考えると非常に難しいことだと再確認させられました。

スライドの枚数を精選して、1枚1枚を丁寧に説明した方が分かりやすいのではないかと思います。

設問2について

言葉遣いは大事ですね。私の乱暴な言葉遣いを少し改めようと思っています。

授業の中で、学生を励ますことも重要なことが分かりました。なかなか、元木先生のようにうまくはいかないものですが、少しずつでも向上していきたいと思っています。

設問3について

元木先生の授業を参観するのは、これで3回目です。進化の跡がなぞれて、とても興味深いものがあります。

それから、今回は、新潟大学から2名の先生が参観され、検討会にも加わられました。こうした他大学との連携は、これからも進めていきたいと思っています。

参観者5：理学部

設問1について

授業の流れが整理されていた。特にプリント、スライドと話の流れと組み合わせが適切であった。

音声が小さい。

スライドをもっと大きく映せないか(装置の問題)。

設問2について

大教室での授業の進め方(スライド)が参考になった。

設問3について

教員の講義および学生の反応について他者から意見を得ることは、敷居が高いが「素直に今後の授業に生かしていくという考え方」を共有していく意味で有効かと思う

参観者6：新潟大学農学部

設問1について

- ・(雪のためか)遅刻者が多かった?
- ・本当に久しぶりに教養の授業を聴いたが、もう一度教養教育を受けたいと思った。
- ・公開されていると知りながら、いつもどおりに行ける学生(私語、メール、内職、睡眠)はすごいと思った。

設問2について

- ・以下は共通の問題でしょうか?
 - ：遅刻者、内職、寝ている学生への対応をどうすべきか。注意をしたいのだが、良い方法が見つからない。
 - ：出席カードの確認をどうするのか。(本当に出席しているのか)(遅刻者はどうするのか)
- ・参考になったのは、学生の中に入っていくこと。

ミニ公開授業3

授業科目名：新 生命再考(教養セミナー)

授業者：小田 隆治(教育学部)

公開日時：1月22日(水) 14:40~16:10

授業者のアンケート

設問1について

これまで、10回程度学生の発表と討論で構成した授業を実施してきました。冬休みにはレポートを課し、全員の分を報告集としてまとめてきました。

今回を含めた最後の2回の授業はディベートを行っています。積極的に自分の意見を表明することは、身に付いてきたようですが、知的ではありませんでした。それが、今回のディベートでは、下調べをしてきていたので、うれしく思いました。

設問2について

この授業は、しっちゃんめっちゃかの学生が集まったので、正直、授業が成立するのかがどうか不安がありました。それを他の先生に見せるのは勇気が要りました。しかし、こうしたことも必要なのだと思っています。

設問3について

授業が終わって、学生と参観してくれた先生と交えた検討会を行いました。学生から意見を聴くことによって、更に充実した検討会が行えるものです。

ミニ公開授業4

授業科目名：ようこそ先輩(教養セミナー)

授業者：仙道 富士郎(学長)

公開日時：11月15日(金) 10:30~12:00, 16:20~17:50

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

多忙な学長さんが実施されている授業であるから、そう細かいところまでは気が回らないだろうと思っていたが、なかなか工夫の行き届いた優れた授業だと感心させられた。特に毎回2コマ確保し、学生(の代表)が昼休みなどを利用して講師=先輩と食事をして質問を考え、2コマ目は学生の質問を中心に

進めるという方法は、有効に機能していたように思われる。学生が自分の頭で考え、学生が中心になって授業の可能性を広げていくことができる授業形態ではないか。

いろいろな分野で活躍する先輩から話を聞くという内容は、学生にとって大きな教育効果が期待できるのではないかと、思われた。教養教育の授業改善の先進事例として、どこに出しても恥ずかしくない内容である。

今回参観した授業は阿部憲史さんのお話を中心に展開されたことから、その話自体が非常に衝撃的で、学生にも大きな刺激になったと思われる。私も授業参観者という立場よりも学生と同じ聴講者として勉強させてもらうことになった。

設問 2 について

テーマや素材の選択に自由がききやすい教養教育（一般教育）の場合、題材の選び方が如何に重要かということを考えさせられた。

設問 3 について

検討会で阿部さんや仙道先生の話を知ることができたのは、さらに得難い経験であり、大変に興味深く、勉強になりました。



参観者 2：人文学部

設問 1 について

何よりも、講師のインパクトが強く、これなら学生に感銘を与えることだろうと、感じられた。学生にとっては、学外の社会人と交流する機会そのものが貴重なものだが、今回の講師のような人材と交流できたことは、一生の糧となることと思われる。

設問 2 について

私の授業では、学生とのインタラクティブなコミュニケーションが乏しいことが痛感された。これを機に、この問題を改善してゆきたい。

設問 3 について

「ようこそ先輩！」の企画は、相当な成功を収めたと感じられた。今後も、これに類するユニークな授業を開発してゆくことが必要と思われる。

参観者 3：教育学部

設問 1 について

今回の授業は、講師の阿部先生自身の「プロジェクト X」のお話でとても感動的なものでした。そこには、阿部先生の下半身不随からの復活、奥様との愛、学生たちが関心のある精神科医、という多くのことが盛り込まれていました。特に、奥様がこの授業にこられて、阿部先生の介助をし、話に加わられたことは、学生たちに大きな感動を与えたことと思います。実際、学生たちは講師の話真剣に聞いていました。

大学に復帰する際にとった山形大学の態度について、講師が大学の柔軟性を誉めてくれたことは、学生にとっても山形大学を誇りに思うきっかけになったと思います。

授業自体としては、学生に渡す資料や名札などのアイデア、学生へのレポートの作成、学生の司会など、授業に対して盛りだくさんの工夫がされているのがよくわかる授業でした。

卒業生の講師によるとてもいい授業なので、もっと多くの学生に聞かせたいと思いましたが、少人数で小さい教室で講師との距離を近く保って密度濃く行なうこのままの方式でもいいのか、とも思います。

学長自らが学生のレポートのひとつひとつに感想を書き込んでいるのはとてもいいことだと思います。ですが、実質 1 回目である 10 月 11 日のレポートが実質 5 回目の 11 月 15 日に返却されるのは遅すぎるのではないのでしょうか。少なくとも、1 回目のレポートは次の授業に返却したほうがいいのかではないのでしょうか。授業の開始当初から、学生は授業者にみまわれていることを意識できるからです。このようにして、精神的な側面からも授業の双方向性が確保できることと思います。

学長は学生の車座のなかに座って、もっと前面に出て話に加わっていいのではないのでしょうか。また、4 回目の授業あたりで、講師なしで、学長と学生でこの授業を通してどのように自分たちが成長したか、思い出に残っている話は何かを語り合った方がいいだろう、と思います。学長はこの授業のプロデューサーだけではもったいないのです。多忙な中でせつかくこのような授業をしますので、学長は学生との交流をもっと深めていただきたいと思います。

講義名「ようこそ先輩」の名称は、変更したほうがいいのか、という

学長自らが行なう授業は山形大学の目玉の一つです。この授業が学生だけでなく、市民にも開かれた授業に発展されることを願っています。

設問 2 について

授業に様々な工夫が組み込まれていることを学生は素直にうれしいのだな、ということがわかりました。準備のために時間がかかって大変ですが、これからも授業の創意工夫が必要なのがわかりました。

設問 3 について

中村三春さん、立松潔さん、そして私とうるさい 13 人に授業を参観させてください感謝しています。検討会でも自由に好き勝手なことを言い合いました。こうしたことは、授業の改善ばかりでなく、大学の発展のためにも大事なことだと思います。「ミニ公開授業 検討会」は、名称はミニですが、教育改革に果たす役割は FD 合宿セミナーに匹敵するくらい大きいものだと思います。



授業者のアンケート

設問 1 について

講師が脊椎損傷の医師といくかなり特殊な条件もあったが、学生には impact を与えたと思う

設問 2について

こういった機会をもっと多く取り入れたら良い。いわゆるpeer reviewは、学生教育の場でも大切なことと思う

設問 3について

授業担当者の講義における位置付けなど、参考になる意見をいただいた。

ミニ公開授業 5

授業科目名：ダンス（スポーツ実技）

授業者：高橋 芳子（教育学部）

公開日時：11月14日（木）10:30～12:00

授業者のアンケート

設問 1について

スポーツ実技の中で1番学生が集まらない種目である。しかし、開講して集まった学生たちは休まないで授業に参加し、楽しんでる。当日も、予定したフォークダンス「マイムマイム」は、学生たちの工夫であおもりの民俗に変容し、汗が噴き出するような運動量で、全員が楽しんで踊っており、内心、びっくりしている。

設問 2について

ダンスのグループ分けの段階で、あまり意欲のない学生たちが、単位のために受講するのではと思い込んでいたことに反省をしている。専門家を育てることのみ集中しがちな自分自身を深く反省し、学生と共に踊ることを楽しんだ時、生涯スポーツの意義を、あらためて体感した。学生たちが最大欲しているものは、ダンスを通しての人間関係の拡大であった。

設問 3について

内地留学の先生方（小学校教諭）と話し合った中で、現在の学生のニーズにあった教材化が必要であることが確認された。特に、ダンスムーブメントセラピーの要素を取り込むことが必要であることが明らかになった。

ミニ公開授業 6

授業科目名：ドイツ語

授業者：奥村 淳（人文学部）

公開日時：10月25日（金）10:30～12:00

授業者のアンケート

参観者 1：人文学部

設問 1について

公開授業というより、いわゆる模範授業という内容を持った授業で、一見すると「語学の授業」なるイメージの濃い形式（例：対面授業、一斉リーディングetc.）を取ってはいたが、学生を授業目標へと導いていくやり方は、実に確実かつスピーディであった。

この点は、初修外国語担当者として見ると、誠に教師の腕が最もよく表れるところで、「不要な説明や脱線」を排し、重要な点は強調され、目的に適した「授業の一典型を見た思いであった。

設問 2について

上記授業には、準備にかなりの時間と教材選び、それに授業の構成の工夫に相当の努力が払われているはずで、当今の多忙さの中で、よくこれだけのことができるものだと思嘆せざるを得なかった。

これに対し、自分の授業は「学生の心理的負担を減らし、ミニマムの暗記に加え、無駄のない練習」により、「応用の利くスキル習得」を目標にしているが、まだまだ工夫の余地有りとの感を深くしている。

設問 3について

3人のグループで、授業参観・検討を行ったが、益するところ大というのが偽らざる感想である。この結果は、我々の共有資源（？）となるものと感じている。

加えれば、この「授業相互見学検討」を適度のグループ化と柔軟なシステム化により、教養教育・初修外国語の共有資源としたいものである。

参観者 2：人文学部

設問 1について

語学としては、非常に人数の多いクラスであり、私語が多かったです。全員に目が届かない多人数クラスは、語学にはあまり相応しくないと感じました。

設問 2について

この授業では、頻繁に小テストを行っているようでした。自分の授業でも、もっとテストの機会を増やす方が良いのではないかと思います。

設問 3について

教授法については、日頃から話し合っていると思います。自分の担当していない学部の様子を知ることができた点で、有効であったと思います。

授業者のアンケート

設問 1について

学生の態度が、いつもより真面目であった。（特に前半）

設問 2について

自制しているつもりだが、なんでも詰め込もうとする欲求が、まだ強いかもしれない気がついた。教養教育について、専門学部の先生方の態度一つで1年次学生の教養教育に対する態度が随分大きく影響されるのではないかと、いうことを、なぜか感じた。（上記1と関係するのかもしれない。）

設問 3について

初めてなので、少し緊張した。自分の授業だけの参観でなく、他の人の授業を見てから考えたい。教室の構造が、入口が前のみだったので、参観者の入場が、少し違和感を与えた。

検討会については、授業や方法について話し合う機会がなかなかないので、そういう機会となっただけでも、互いのコミュニケーションを取ることができて良かった。

ミニ公開授業7

授業科目名：ドイツ語

授業者：渡辺 将尚 (人文学部)

公開日時：11月12日(火) 10:30~12:00

授業者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

明るく、はきはきとした雰囲気の中で好感が持てた。進め方も良かった。学生に対しては、何故、初修を学ぶのかを少しは意識させると良いかもしれません。(卒業必修のためというだけでなく)

設問2について

90分エネルギーに自分も授業したいものです。60分くらい経つと、学生も少しくたびれる感じがしたので、自分としても何か、<合いの手>を入れると良いと思った。

設問3について

ドイツ語担当者以外の教官の参加が良かった。

参観者2：人文学部

設問1について

AC, PC, etc.の機械を使う場合、見学者が、かえってハラハラするような、機械の御機嫌に左右される場面が少なからずあるにも関わらず、

教授者 = 機械 = 学習者

Butsch!

のように授業を進めておられたのは、私など、まねのできぬ所です。

設問2について

原始人が、21世紀の人に、半ば茫然自失の状態、シトロモドロに、石のお金やマンモス狩りの日常を話す感じとでも言ったら良いのでしょうか？それに体力気力や声の張り..実に自然にStudent Innenの気持ちの中に入れていける雰囲気作り usw... (思わず、そのBegabungを羨望の念)Text 1冊だけの学生時代を思い出し、教える方に力を払わなかったなあと慚愧。

参観者3：人文学部

設問1について

- ・テンポ良く講義が進み、流れによって内容が理解できる。
- ・教材(CD)は、機能的に優れ、かつドイツ語やドイツ文化への興味を引くのに適している。
- ・学生の氏名を正しく記憶していることに感心した。
- ・失敗を恐れないという意識が、学生にまだ十分でないように感じられた。

授業者のアンケート

設問2について

板書の見えやすい位置、見えづらい位置等、受講者の立場に立った意見を聞くことができました。

設問3について

限られた枠内で行うのではなく、広く学外の人達(高校生を含む)をも対象にしたものが増えれば良いのではないかと思います。その折には、積極的に協力したいと考えています。

ミニ公開授業8

授業科目名：ドイツ語

授業者：林 雄作 (人文学部)

公開日時：11月12日(火) 13:00~14:30

授業者のアンケート

参観者：人文学部

設問1について

ゆっくり丁寧に説明しつつ、重要な点は落とさず、すべてに言及するという進め方は、大変参考になりました。

設問2について

先生が、学生の発言に注意深く耳を傾けておられたのが印象的でした。自分が今まで注意しなかった点でした。

設問3について

非常に有意義でした。希望しない教官は別として、積極的に授業を公開しても良いと考える教官に対しては、もっと大規模な公開授業の機会が与えられても良いのではないかと感じました。